

## ネットワークセミナー006 レポート

### 「コレクティブな国？デンマーク報告」 森の幼稚園、自然エネルギー、エコヴィレッジなどを題材に ～世界一幸せな国、はなぜ幸せか～

- 日時:2009年10月25日(日) 15:00～18:00
- 場所:松陰コモンズ
- ゲストスピーカー:ニールセン北村朋子氏
- スピーカー:NPO コレクティブハウジング社 影山

- セミナーレポート:

**【セミナーに出席したCHCスタッフから、感想を含めて以下レポートします。】**

-----  
今回のネットワークセミナーのテーマは、デンマークでした！

「世界でいちばん幸せな国」といわれるデンマーク、その理由は一体どこにあるのだろう？

私たちがコレクティブな関係を築いていくときのヒントがたくさん隠れたセミナーでした。

#### 森のようちえん

雨の日も、雪の日も、一日中森で過ごす園児たち。

自然を活かして学ぶ「森のようちえん」の発祥はデンマーク！！

森のなかで遊ぶなんて危ない、と思われるかもしれませんが、ここではのこぎりなどの工具類も自由に使わせて、好きなように遊ばせています。

ただ当然大人が脇にいますので、はじめにしっかりと使い方を教えたり、危ないところにはいきそうだったら止めたり、遊ぶことの手伝いをしたりする役割を担っています。

園の目標は、民主主義の社会で自律したひとりの人間として、役割を担えるようになること。

個人の自律心を引き出していくこと、個人同士の付き合い方やつながりなど社会性も含めて、こどもの段階から引き出していくことだそうです。

#### 自然エネルギー・再生可能エネルギー

日本のエネルギー自給率が6%と言われるなか、世界一エネルギーコンシャスな島「ロラン島」のエネルギー自給率は200%！！デンマークは、国全体でも150%！！

風力発電、バイオガス発電、藻を使った発電、水素を使った発電などが実際に行われています。

電気館では、こどもたちがゲームを通してエネルギー開発を仕組みとして学んで、生活のなかでこれを理解していくというきっかけづくりをしていました。

このようにエネルギー開発の分野でも、こどもたちを社会の一員として対等に考えている。将来の

## ネットワークセミナー006 レポート

---

社会を担っていく子どもたちの意見なしに、大人だけで未来に関わることを決めていいわけじゃないか、ということを当たり前にも思っている、と感じました。

### エコビレッジ(スヴェンフォルム)

1978年に創られたエコビレッジで、現在は子ども60人、大人80人が暮らしています。デンマークのなかでも他に類を見ない先駆的な事例であり、入居者全員が収入の8割を共通のお財布として使っている。その使い道は、月に一度の定例会議で全員で話しあって決める。その会議では、「ぼくは反対です！」はルール違反で、「どうしたら自分が賛成できるのか」など建設的な妥結点を見つけられるかどうかを考えるのがルールで、多数決で物事を決めない方法をとっています。

また地域からもとても愛されていて、収穫祭やオープンハウスをして、ビレッジ外とのコミュニケーションをはかることもとても大切にしているそうです。形式は違うけど、コレクティブな関係を形成するヒントがたくさんありました。

### 相手の意見に対して、Yes,and..のできる国

誰かが何かやりたいと思ったら、門前払いはありません。

その意見を受け止めて、どうやったらできるかを一緒に考える。

教育でも、政治でも、その実現は当事者が行うことであり、周りが必要なサポートを提供する。すなわち、主役は、森のようちえんにおいては「先生」ではなく「子ども」、地方自治体では、「市・県の職員」ではなく「市民・県民」という考え方。

今回のツアー参加者やニールセン北村朋子さんのお話のなかで、デンマークという国自体が、ひとつの国として「コレクティブな関係性」を成り立たせているのではないかと感じました。

今回のキーワード:デンマーク ロラン島 コレクティブな関係 自律 個 Yes,and.. 子ども

以上